野生ニホンジカの奇形胎子の一例

秦彩夏[1]、須田遊人[2]、佐伯緑[1]、嶌本樹[3]、吉村久志[3]、
山本昌美[3]、藤原亜紀[3]、神谷新司[3]、播谷亮[3,4]
1. 農研機構・中央農業研究センター　2. 農研機構・動物衛生研究部門
3. 日本獣医生命科学大学　4. 東京大学大学院農学生命科学研究科

キーワード：ニホンジカ、胎子、奇形

長野県東部において捕獲されたメスの野生ニホンジカ（*Cervus nippon*）の胎内から奇形胎子を発見した。コンピュータ断層撮影、解剖および病理検査を行った結果、重度のジャックナイフ様脊柱後弯等の骨格異常、白線の離開と腹部臓器の腹壁外への脱出、口蓋裂、鼻裂、右前肢指骨の過剰背屈、第3および側脳室の拡大、肺の分葉異常、鎖肛がみられた。反芻動物で胎子奇形を引きおこす病原体は検出されなかったため、病原体による感染が奇形発生原因である可能性は低いと考えられた。本研究は野生ニホンジカで重度の奇形胎子を記録した初めての例である。野生動物における先天性奇形の発生頻度や原因、症状の特徴などの理解には更なる研究が必要と考えられる。